

- 問1 北海道の日本海沿岸に位置する稚内付近では、5月から6月にかけて月別平均日照時間がピークを迎えます。このような自然環境に関する説明として、誤っているものはどれですか。 (2021年 兵庫県公立入試 類似)
1. 夏季の日照時間が長いのは、寒流である千島海流が宗谷海峡を通して日本海へ流れ込み、雲の発生を抑えるからである。
 2. この地域が日本の他地域に比べて高緯度にあることは、夏季の昼の時間が長くなる要因となっている。
 3. 5月から6月にかけて日照時間が長くなるのは、梅雨前線の影響を本州ほど受けにくいことも背景にある。
 4. 日本海を北上する対馬海流は暖流であり、この地域の気候に影響を与えている。
- 問2 北海道の内陸部における気温や降水の特徴を説明した内容として、正しいものはどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 季節風の影響で冬に降水量（降雪量）が集中するが、海に囲まれているため一年を通じて気温の変化は小さい。
 2. 海の影響を受けにくいと、夏と冬の気温差（年較差）が非常に大きく、冬の月平均気温は氷点下になる。
 3. 一年を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の影響を頻繁に受けるため、年平均気温が高い。
 4. 暖流である対馬海流の影響を強く受けるため、冬でも比較的温暖であり、雪が降ることは稀である。
- 問3 北海道における二〇〇五年から二〇二〇年にかけての農業統計では、農業経営体の総数が五百四十七から三百四十九へと大幅に減少する一方で、団体経営の数は三十五から四十三へと増加しています。また、経営耕地面積の合計は大きな減少を見せていないため、一経営体あたりの面積が拡大しています。このような北海道農業の動向を表す言葉として最も適切なものはどれですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 二毛作による土地利用の向上
 2. 農業経営の大規模化
 3. 減反政策による生産調整
 4. 近郊農業の展開
- 問4 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
1. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。
 2. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。
 3. 年間を通して温暖で湿潤な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。
 4. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。
- 問5 北海道の大規模な畑作地帯では、1つの土地において1年目に豆、2年目に小麦、3年目にてんさい、4年目にじゃがいもというように、数年周期で育てる作物を変える工夫が行われています。このような栽培方法を何といいますか。 (2018年 長野県公立入試 類似)
1. 二毛作
 2. 促成栽培
 3. 輪作
 4. 二期作
- 問6 地形図における縮尺の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれか。なお、札幌市の北海道大学植物園から南東方向に位置する市役所（地点B）までの実際の距離を1km（1000m）とした場合を想定して答えなさい。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
1. 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。
 2. 5万分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。
 3. 5万分の1の地形図では、図上の長さは5cmになる。
 4. 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは2cmになる。
- 問7 北海道の北東側に位置する海域では、冬季になるとシベリア沿岸から流れてきた氷が接岸し、一面が白く覆われる光景が見られます。この海域の名称と、押し寄せる氷の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. オホーツク海 — 樹氷
 2. 日本海 — 流氷
 3. オホーツク海 — 流氷
 4. 太平洋 — 樹氷
- 問8 北海道の各地域の自然環境について述べた文のうち、網走や紋別などを含むオホーツク海沿岸の特色として最も適切なものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 夏に千島海流（親潮）の上を吹き渡る湿った冷たい風の影響で、濃霧が発生しやすい。
 2. 冬になるとシベリア沿岸から凍結した海水が運ばれ、海岸を埋め尽くすことがある。
 3. 十勝平野を中心に火山灰の土壌が広がっており、大規模な畑作や酪農が行われている。
 4. 対馬海流の影響を強く受け、冬には北西の季節風によって日本海側に大量の雪をもたらす。
- 問9 かつての石狩平野の自然環境と、その土地で行われた開発の背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 海岸近くの浅瀬を堤防で囲んで干し上げた土地であったため、塩害を防ぐための用水路整備を優先した。
 2. サンゴ礁が隆起してできた保水力のない土地であったため、地下ダムを建設して農業用水を確保した。
 3. 火山噴出物が堆積した水はけの良い土地であったため、大規模なかんがい施設を整備して畑作を行った。
 4. 植物の遺体分解されずに堆積した農業に適さない湿地帯であったため、排水や客土による土地改良を行った。
- 問10 石狩川はかつて、平野部で非常に激しく蛇行して流れており、大雨のたびに深刻な洪水被害をもたらしていました。この問題を解決し、土地を有効活用するために明治時代以降に行われた河川改修工事の内容と、その後の変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
1. 川の蛇行部分を切り離して直線化する工事が行われ、排水が改善されたことで、湿地帯だった土地が広大な水田へと生まれ変わった。
 2. 川の流れをせき止める巨大な多目的ダムを平野部に連続して建設し、水力発電による電力を周辺のアルミニウム工場に供給するようになった。
 3. 川底を大幅に掘り下げて水深を確保する工事が行われたことで、日本海側から内陸部まで大型の貨物船が航行できる運河として整備された。
 4. 川の周囲に堤防として大規模な防風林を設置し、冬の北西の季節風による農作物への塩害を防ぐことで、畑作が中心の地域となった。
- 問11 北海道の農業は、広大な十勝平野などを中心に日本の食料自給に大きく貢献していますが、人口に占める農業従事者の割合は全国平均よりも低いという特徴があります。このような数値が表れる背景にある、北海道の農業の仕組みとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 兵庫県公立入試 類似)
1. 1戸あたりの経営面積が広く、大型機械を活用した大規模な農業が行われているため
 2. 都市近郊での施設園芸が中心であり、限られた土地で少人数の家族労働が行われているため
 3. 農地の多くが牧場として利用されており、農作物を作る従事者が不足しているため
 4. 冷涼な気候を活かした稲作が中心であり、冬の間の就業人口が極端に少なくなるため
- 問12 北海道の農業産出額において、畜産が全体の中央値や平均を大きく上回り、5割を超える高い割合を占めている理由として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
1. 冷涼な気候と広大な土地を活かし、酪農や肉用牛の飼育が大規模に行われているため
 2. 温暖な気候を利用して、牛の放牧と米の二毛作を組み合わせた生産が行われているため
 3. 水田単作地帯から、野菜や果樹を中心とした多角経営への転換が最も進んだため
 4. 都市近郊の立地を活かし、新鮮な豚肉や鶏肉を供給する施設園芸が発達したため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 夏季の日照時間が長いのは、寒流である千島海流が宗谷海峡を通過して日本海へ流れ込み、雲の発生を抑えるからである。	北海道の日本海沿岸の気候に影響を与える主要な海流は、暖流の対馬海流です。寒流の千島海流（親潮）は、主に北海道の東部や太平洋沿岸を南下する海流であり、夏季に冷たく湿った空気がこの海流上で冷やされると濃霧が発生し、逆に日照時間を短くさせる原因となります。稚内付近の日照時間が長い理由は、高緯度による昼の時間の長さや、梅雨の影響が小さいといった要因によるものです。
問2	答え 2 海の影響を受けにくいため、夏と冬の気温差（年較差）が非常に大きく、冬の月平均気温は氷点下になる。	海には温度を一定に保つ働きがありますが、北海道の内陸部は海から遠ざかっているため、その恩恵を十分に受けられません。結果として、夏は暑く冬は厳しい寒さとなり、年平均気温が低い北海道の中でも特に冬の寒冷さが際立つ傾向にあります。台風の影響や多雨な気候は、この地域の主な特徴とは言えません。
問3	答え 2 農業経営の大規模化	農業に従事する世帯（農業経営体）の数が減少する中で、一経営体あたりの経営耕地面積が広がる現象は「大規模化」と呼ばれます。北海道では、離農した農家の土地を他の経営体や団体経営が引き継ぐことで、広大な土地を効率よく管理する体制への移行が進んでいます。特に団体経営の割合が増加している点は、組織的な農業運営が強化されている背景を示しています。
問4	答え 4 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。	北海道は梅雨の影響をほとんど受けず、夏は涼しく冬は雪が多いという気候の特色があります。この特色を活かした観光業や農業が発展しており、特に占冠村や二セコ町のような国際的なリゾート地では、冬のスキーシーズンや夏の避暑シーズンに外国人労働者が増加します。このように、その土地の自然環境や気候が、産業構造や地域住民の構成に大きな影響を与えています。
問5	答え 3 輪作	1年ごとに異なる種類の作物を順序立てて栽培する仕組みを「輪作」と呼びます。これは、北海道のように広い農地を活用する地域で見られる特徴的な農法です。同じ土地で同じ作物を繰り返し作る「連作」を避けることで、土壌の質を保ち、収穫量が減るのを防ぐ効果があります。
問6	答え 1 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。	実際の距離が1km（100,000cm）の場合、2万5千分の1の地形図では、100,000を25,000で割った4cmとして表現される。一方で、5万分の1の地形図では、100,000を50,000で割った2cmとなる。縮尺の分母が大きくなるほど、同じ実際の距離は図上でより短く表示されるという因果関係を理解しておく必要がある。
問7	答え 3 オホーツク海 ― 流氷	北海道の北東部に面するオホーツク海では、冬になるとアムール川河口付近で凍った海水が風や海流に乗って南下し、流氷となって海岸に到達します。これに対し、日本海側は対馬海流（暖流）の影響を受けるため流氷は見られず、樹氷は山地の樹木に水分が凍り付く現象を指します。
問8	答え 2 冬になるとシベリア沿岸から凍結した海水が運ばれ、海岸を埋め尽くすことがある。	オホーツク海沿岸の最大の特徴は、冬に見られる流氷です。これはアムール川からの淡水流入などで塩分濃度が低くなった海域で氷が形成され、それが南下してくることで起こります。他の選択肢については、夏の濃霧は太平洋側、火山灰土壌（シラスや黒土）による大規模農業は十勝平野など、日本海側の豪雪は季節風と対馬海流の影響によるものであり、地域ごとの気候区分を正しく理解しておくことが重要です。
問9	答え 4 植物の遺体が分解されずに堆積した農業に適さない湿地帯であったため、排水や客土による土地改良を行った。	石狩平野の開拓における最大の課題は、泥炭地と呼ばれる湿地帯の克服でした。泥炭地は植物が腐敗しきらずに積もったもので、そのままでは農業に適さないため、水を抜くための排水技術と、別の場所から土を運び入れる客土という高度な土地改良技術が組み合わせられました。他の選択肢にある「火山噴出物の土地」はシラス台地、「サンゴ礁の土地」は沖縄・南西諸島に関する記述であり、石狩平野の歴史的背景とは異なります。
問10	答え 1 川の蛇行部分を切り離して直線化する工事が行われ、排水が改善されたことで、湿地帯だった土地が広大な水田へと生まれ変わった。	かつての石狩川は全長が現在の約1.4倍もあり、非常に蛇行が激しい川でした。洪水を防ぎ、泥炭地の水を抜いて農地（水田）として利用しやすくするため、蛇行している部分をショートカット（捷水路工事）して流れを直線化する工事が進められました。これにより、水はけが良くなり、石狩平野は北海道を代表する米どころへと発展しました。工事によって切り離された蛇行の跡は、現在も各地に「三日月湖」として残っています。
問11	答え 1 1戸あたりの経営面積が広く、大型機械を活用した大規模な農業が行われているため	北海道の農業は、他の都府県と比較して1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を導入した大規模な経営が主流です。これにより、少ない労働力で広範囲の農地を管理できるため、農業生産額は大きいものの、全人口に対する農業従事者の割合は全国平均を下回る水準となっています。このように、生産性の高さと従事者の割合は必ずしも比例しません。
問12	答え 1 冷涼な気候と広大な土地を活かし、酪農や肉用牛の飼育が大規模に行われているため	北海道の農業は、1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を用いた効率的な生産が行われています。特に冷涼な気候は乳牛の飼育に適しており、広大な原野や草地を利用した大規模な酪農が営まれていることから、産出額に占める畜産の割合が非常に高くなっています。これに対して、都市近郊型農業や温暖な気候を利用した促成栽培は、他の地域の特色です。